

平成 28 年度 第 2 回大阪府立豊島高等学校協議会 開催記録

開催日時	平成 28 年 10 月 14 日(金)
場所	豊島高等学校会議室
出席者	委員 芝田氏 (関西学院大学教授)、家島氏 (大阪大学専任講師)、大石氏 (財千里文化財団理事)、末永氏 (箕面市立第五中学校長)、湯川氏 (豊島会副会長・大阪府 PTA 協議会) 校長 羽根 隆 事務局 佐々木教頭、福井首席、甲田首席、櫻田事務長、田中教務主任、岡本進路主事
校長挨拶	学校の近況報告 ・ 9 月以降の学校の様子について報告
現状報告と 取組み	<p>(1) 平成 29 年度教科書採択結果について (教務主任より) 選定についての周知を徹底 (公明性・公正性・透明性の確保) ※発行者との利害関係がない者 採択方法 多数決やこれまでの慣例に縛られない。 平成 28 年 9 月 16 日付け教育長より採択されたことを通知。</p> <p>(2) 第 1 回授業アンケート実施 (教頭より) 授業アンケート実施の趣旨、活用の流れ、結果 (レーダーチャート) について ※昨年との比較: 大きな差異は見られない。 LHR を使い、全教科を一斉に一定の時間を使って実施となっている。 「授業分析」の項目: ○テストの結果だけでなく、平常点も含めて評価している。 内規でそうするようになっていたので、4 点満点のはずだが、そうでないのは説明不足か。 生徒意識「1」・「2」の点数がアップする授業をめざし、改善すべきである。</p> <p>(3) 平成 28 年度学校経営計画の進捗状況について (校長より) 現時点での取り組み内容に対する自己評価</p> <p>1 学力向上と授業改善の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普総選アンケート (3 年次実施) の選択科目と進路実現 67.3% ・ ガイダンスの充実度 (1 年から 2 年次) 74.7% ・ ガイダンスの充実度 (2 年から 3 年次) 78.6% ・ 家庭学習 <ul style="list-style-type: none"> 1 年平日・休日 入学時と今回の変化 (入学時より減) 2 年平日・休日 4 月と今回の変化 (4 月時点より減) ・ コミュニケーション力がついた 本校 72.3% ・ プレゼンテーション力がついた 本校 56.0% ・ わかりやすい授業の肯定率 <ul style="list-style-type: none"> 昨年 90% 今回 88% <p>2 自分の将来を見据えた進路実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 勉強合宿 <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、事前にプレ合宿を校内で実施。 65 名の参加 事後アンケート 95%の満足度 ・ 難関 8 私大 (関関同立、産近甲龍)・中堅私大合格者数 (延べ人数) の向上。 ・ 大学バスツアー <ul style="list-style-type: none"> 京都産業大学・龍谷大学コース 武庫川女子大学・神戸女子大学コース 甲南大学・神戸学院大学コース 実施後にアンケート集約 ・ コース制移行に伴い、新たなガイダンスブックの作成・完成

	<p>3 自主・自立の精神を養い、世界に繋がる生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻総数：平成 27 年度 2000 回を 1800 回にする。 昨年を上回るペースで増加 ・クラブ加入率（今年 70%、昨年 73% 目標 75%）例年に比べ、クラブに加入しない生徒が増加。 ・部活動の地域事業への参加 例年同様に達成できる見込み。 ・学校教育自己診断の学校行事における肯定率 結果は 3 月末 ・国際交流 オーストラリア モドボリー校と姉妹校提携成立。 韓国 慶南女子高校との交流も継続（今年も 1 月来日）新たに、韓国 南山高校（前慶南女子高校校長の転勤先）とも交流今年 2 月に、10 名程度来日予定 ・安心・安全な学校作り 人権に関する取り組みで、第 1 回アンケートでは申し出はない。 <p>4 学校全体の課題を共有し、解決に向けての組織づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末後講習について 実施母体を進路・教務部が担当し、生徒・教員の満足度の高い講習をめざす。実施後、アンケートを実施。 ・各コースの魅力となる取組について 大阪成蹊大学との高大連携事業の一環で各専門コースに沿った授業を大学で実施していただいた。各コースとも参加した生徒の満足度は高かった。 <p>5 Moodle を使った電子媒体の利用状況と進展状況の説明</p>
協議及び 質疑・応答	<p>A 氏：授業改善に、熱心に取り組んでおられる。中学校も新学習指導要領に則り、アクティブラーニングの導入等、検討すべきことが多々ある。アンケートを使った P D C A サイクルを活用し、結果より教員に対して、よりよい授業つくりのために、日々頑張っていくことは必要。</p> <p>B 氏：2 年前よりかなり進化している。勉強合宿や I C T 機器を使った授業が進んでいる。</p> <p>C 氏：遅刻が多い。クラブ加入率が低い。子ども達に課せられていること（学校も塾も…）が多すぎて、かえって満足できていないのではないかと。真に意欲を持ってやれば良いが、持っているなら子どもは放っておいてもやるだろうし、自分で考えてやれる。 学校がやろうとしている取り組みと家庭や本人に課せられている時間が多すぎて、うまく機能している場合は良いが、できていないのかも知れない。</p> <p>D 氏：＜要望＞ アンケート結果の項目：エクセルを利用して・ポジティブ意見、ネガティブ意見、ニュートラルな意見に分けて記載すると見やすい。 学校評価欄：途中経過でよいので、寸評があればよい。 ＜アドバイス＞ e ラーニングについて：ワンコンテンツ 見る教材なら 10 分、解く教材なら 5 分程度とする。視聴時間と解答時間を計算して、教材作成を生徒自身にも作成させてみるのも妙案。Moodle 使用者の検証をして欲しい。数値目標の設定があってもよいのでは。 授業アンケートの分析より：生徒意識 1：授業に「興味」「関心」を持つことができた。国・理・社等が低いのは何故か。単元・個人の取り組みにもよるか。</p> <p>E 氏：事前に資料を会議までに送っておいてもらえれば読み込んでおける。新学習指導要領について考えていく必要あり。アクティブラーニング、I C T 機器を使った授業とそれらを利用した授業展開における家庭学習と、学校のあり方等がどんどん変わっていく。 アンケート結果や数値目標等、量的把握も大切な要素のひとつではあるが、質的分析も必要である。数値に問題があるものに対して個別に検討していく課題が含まれている。</p>